



新病院長の紹介

熊本地域医療センター



院長

清住 雄昭

昨年四月に院長に就任致しました。
廣田昌彦前院長の掲げます

「かかって良かった、紹介して良かった、働いて良かった、そんな病院を目指します。」

との基本理念のもと熊本大学の先生方、また医師会員の先生方と共に、地域の医療に貢献して参りたい所存です。どうぞご支援の程宜しくお願ひ致します。

昭和三十年〜四十年代、山鹿市で生まれ育ちました。温泉（さくら湯）につかり、八千代座（今でこそ町おこしの中心ですが当時はかなり寂れておりました、劇場だけでは立ちゆかず映画も上映されていまして、舞台花道にねそべって「ゴジラ対モ

スラ」に興奮したのを覚えております。特に何に打ち込むでもなく、のんびり過ごした少年時代でした。

地元の鹿本高校を経て熊本大学に入学。当時はカリキュラムもゆるく（特に教養課程）サークル活動が盛んでした。運動はからつきしでして、何とはなしに本学の合唱部に入部。覚えておいででしょうか、鎮西通り

の中華食堂店主、蔵岡多可士氏が指導者、実に熱い方で、定期演奏会で大曲モーツアルトのレクイエムにフルオーケストラで挑む等、学生には少々分のすぎたサークルでした。（しかし若い時期に音楽に親しんだのは一生の財産となりました）

何とか卒業しまして昭和五十六年、第二内科に入局、翌春、高月清教授が赴任されました。成人型T細胞白血病の病態を確立されるなど卓越した研究者であるのみならず、教養人、風流人でもあり学生に人気抜群で、

入局者がピーク時には二十人を超える程でした。

人吉、球磨地方で外勤後、消化器内科医をめざし当院に赴任。先輩の先生方、またスタッフに恵まれ居るにいてしましまして今日に至り、常勤医では最古参となり、現職を勤めている次第です。

当院は昭和五十六年十一月、熊本市医師会立病院として設立されました。病床二二七床（HCU四 緩和ケア十四 地域包括ケア二十八）、医師四十四名（非常勤含む）、診療科十四、市内の公的病院の中では歴史の新しい中規模病院です。

診療の柱は、「医師会員の先生方との円滑かつ緻密な連携」でして、今でこそ医療界の常識となりました。病診連携を開院当初からモットーとしてまいりました。また休日夜間の急患センター、これは熊本市から熊本市医師会への委

託業務でして、準夜帯、休日の日中は医師会員が、深夜帯は主に大学の内科、外科、小児科医が一次診療に

あたり、病院は診療の場とスタッフを提供し、常勤医が二次診療、後方支援を務める、いわゆる熊本方式で運営されています。通常の診療後、

お疲れのなかで来ていただくわけですが、年間三万数千人の受診があり、熊本市、近郊住民への貢献大であると自負しております。

当院のスタッフはほぼ全員、大学の医局から赴任していただいております。また三次救急的な搬送もたびたび受け入れていただいております。徒歩五分ほどに近接しており、様々にお世話になっております。今後とも一層ご支援の程、重ねてお願い申し上げます。